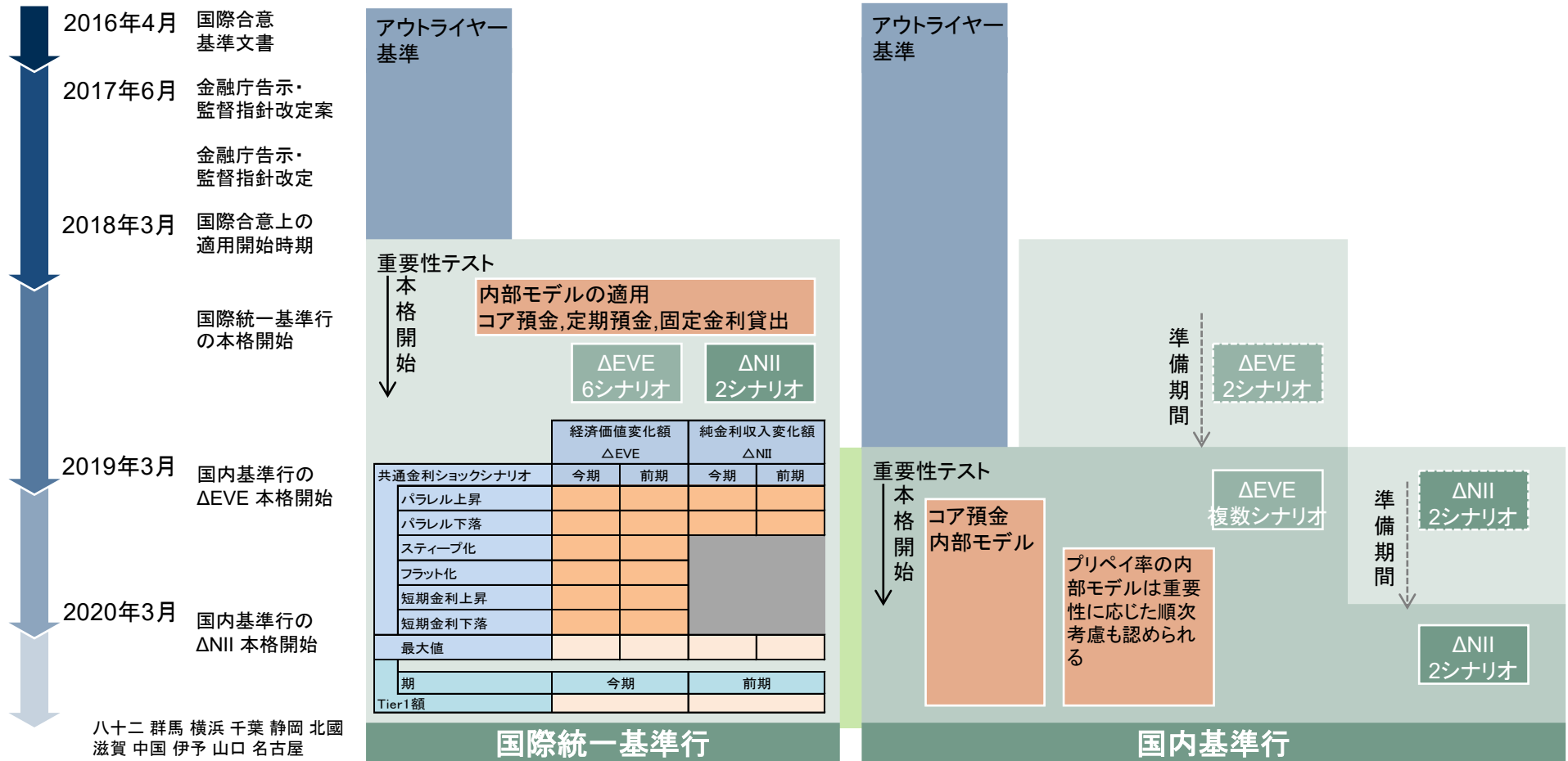


銀行勘定金利リスク管理(IRRBB)の
高度化支援コンサルティング

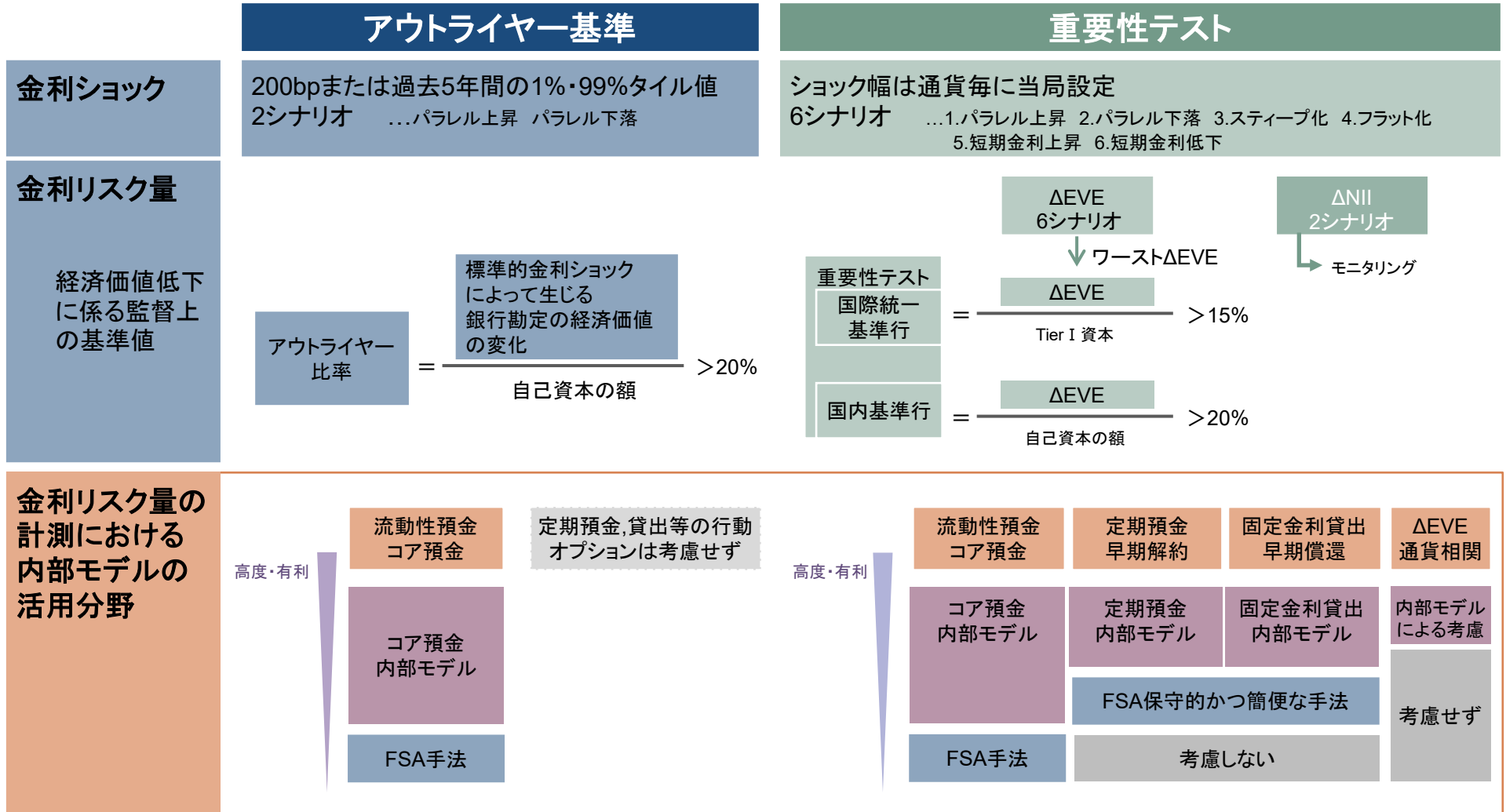
1. IRRBB¹の移行スケジュール

- 国際合意上の適用開始時期は2018年3月で決定していますが、国内基準行については段階的な移行スケジュールが示されました。
⇒ 準備期間中に、利用者行動モデル化と金利リスク影響度計測について、内部管理体制の整備・高度化を図ることが望まれます

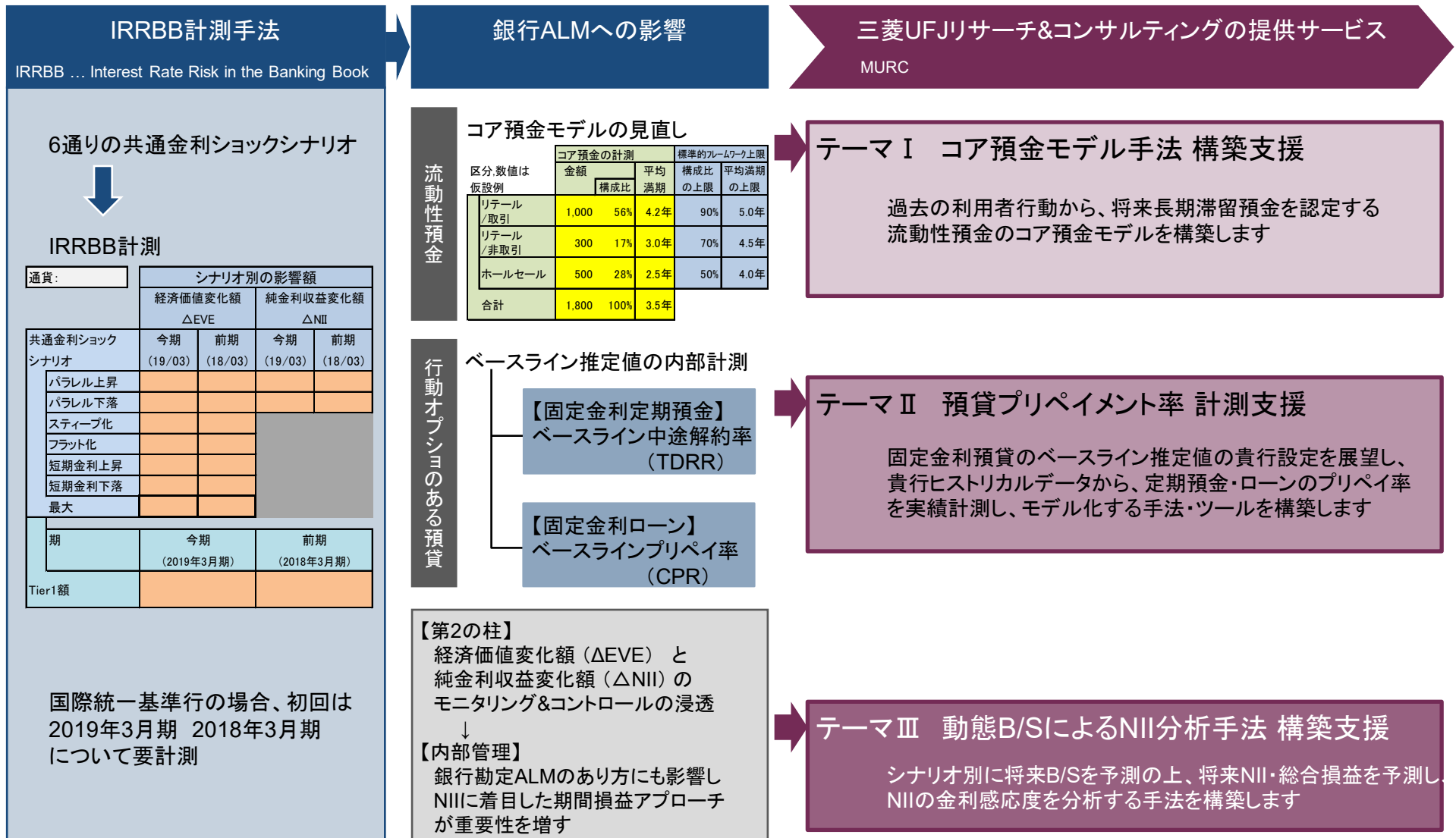


2. IRRBBによる変更点

- 利用者行動に係る内部モデルの適用是非と適用範囲・時期が、ALM所管部署にとっては体制整備上の重要論点と言えます。



3. 銀行勘定金利リスク管理IRRBB・ALM高度化に関連する弊社MURCの取組み



4. コア預金モデル手法 構築支援 (1)コア預金内部モデル手法とは

- コア預金とは、流動性預金のうち預金取扱金融機関に長期間滞留する預金を指します。
- 旧アウトライヤー基準では、コア預金の計測方法は、標準的手法(FSA手法)、内部モデル手法に大別されていました。現在の「重要性テスト」では明確な計算方法の記載がありませんが、基本的に計測手法は踏襲されています。

重要性テスト

$\Delta EVE^{(*)}$ の最大値が自己資本の額の20%を超えないこと(国内基準行)
→コア預金の定義によって、計算されるリスク量が大きく変動することを理解し、
コア預金の内部定義を適切に行い、バックテスト等による検証を行っているか。
(※)上方パラレルシフト、下方パラレルシフト、スティープ化の金利ショックに対する経済的価値の減少額

コア預金

明確な金利改定間隔がなく、預金者の要求によって随時払い出される預金(要求払い預金)のうち、引き出されることなく長期間銀行に滞留する預金

旧アウトライヤー基準における計測手法定義¹

コア預金計測手法

標準的手法 (FSA手法)

a. i) 過去5年の最低残高、ii) 過去5年の最大年間流出量を現残高から差し引いた残高、
又は iii) 現残高の50%相当額のうち、最小の額を上限とし、満期は5年以内(平均2.5年以内)として銀行が独自に定める。

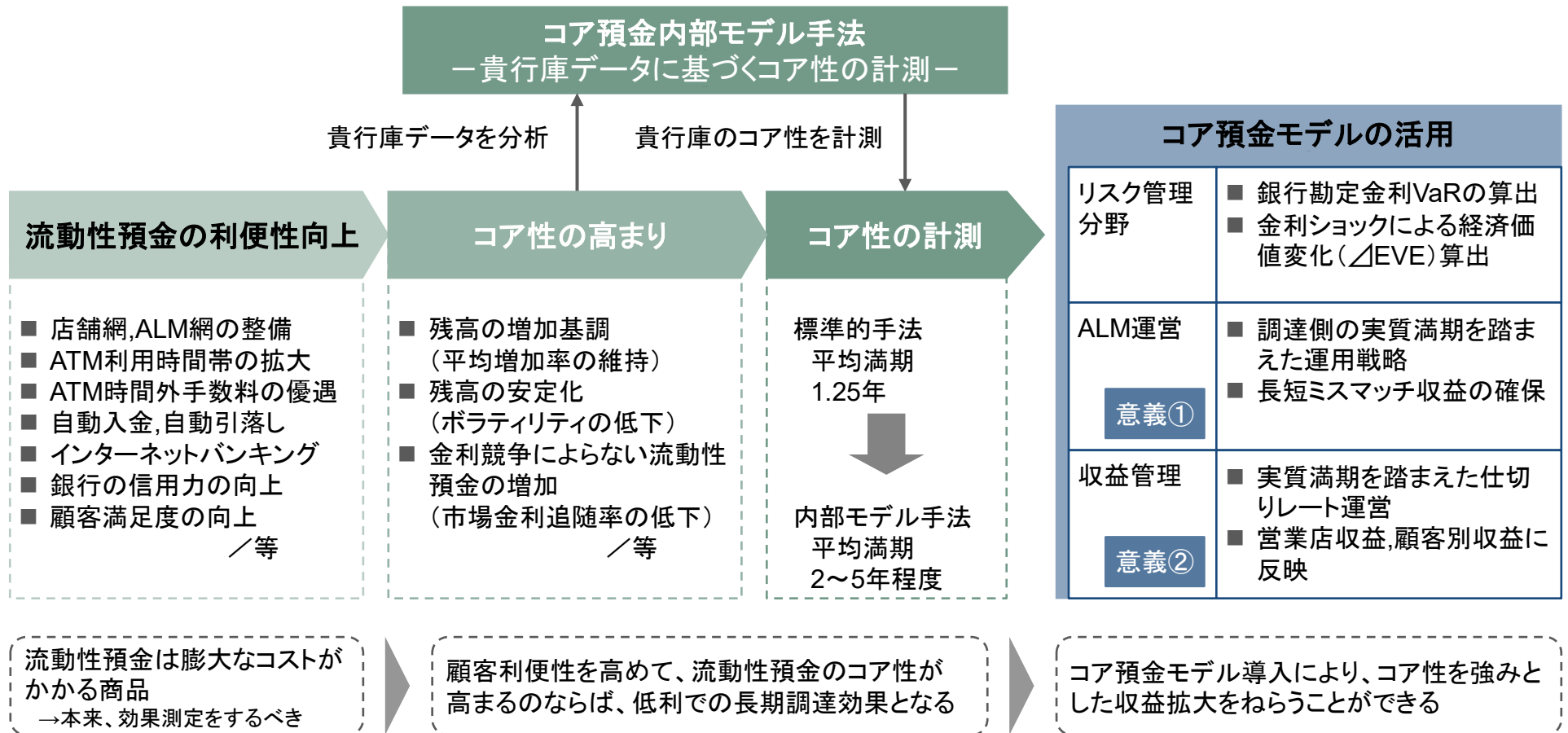
内部モデル 手法

b. 銀行の内部管理上、合理的に預金者行動をモデル化し、コア預金額の認定と期日への振分けを適切に実施している場合は、その定義に従う。

(出所) 金融庁「総合的な監督指針」

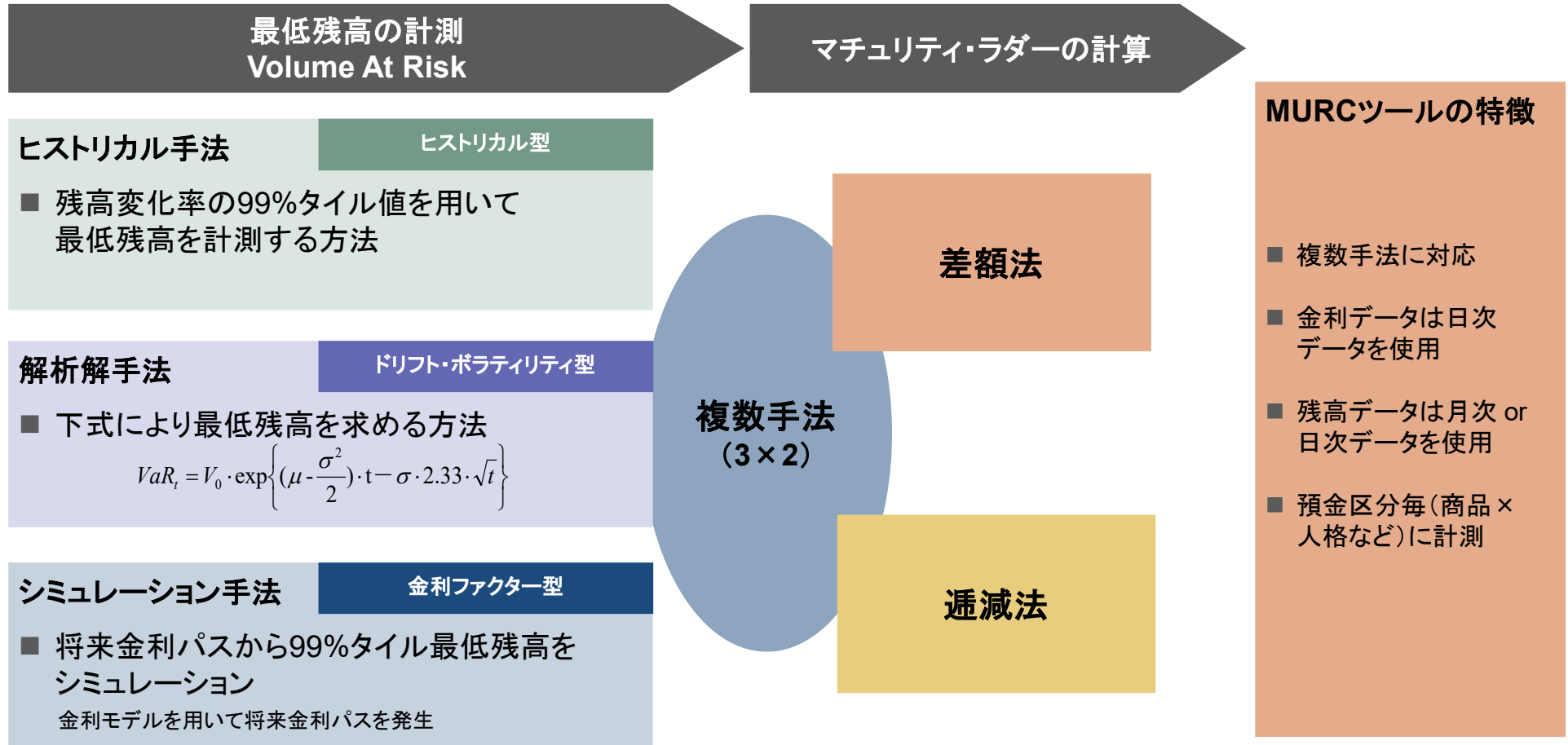
4. コア預金モデル手法 構築支援 (2)コア預金モデル導入の意義

- 流動性預金のコア性(預金取扱金融機関に長期間滞留する性質)を高めることは、低利での長期資金調達効果をもたらし、ALM収益を拡大します。コア預金モデルは、流動性預金のコア性を保守的に計測するインフラの役割を果たします。



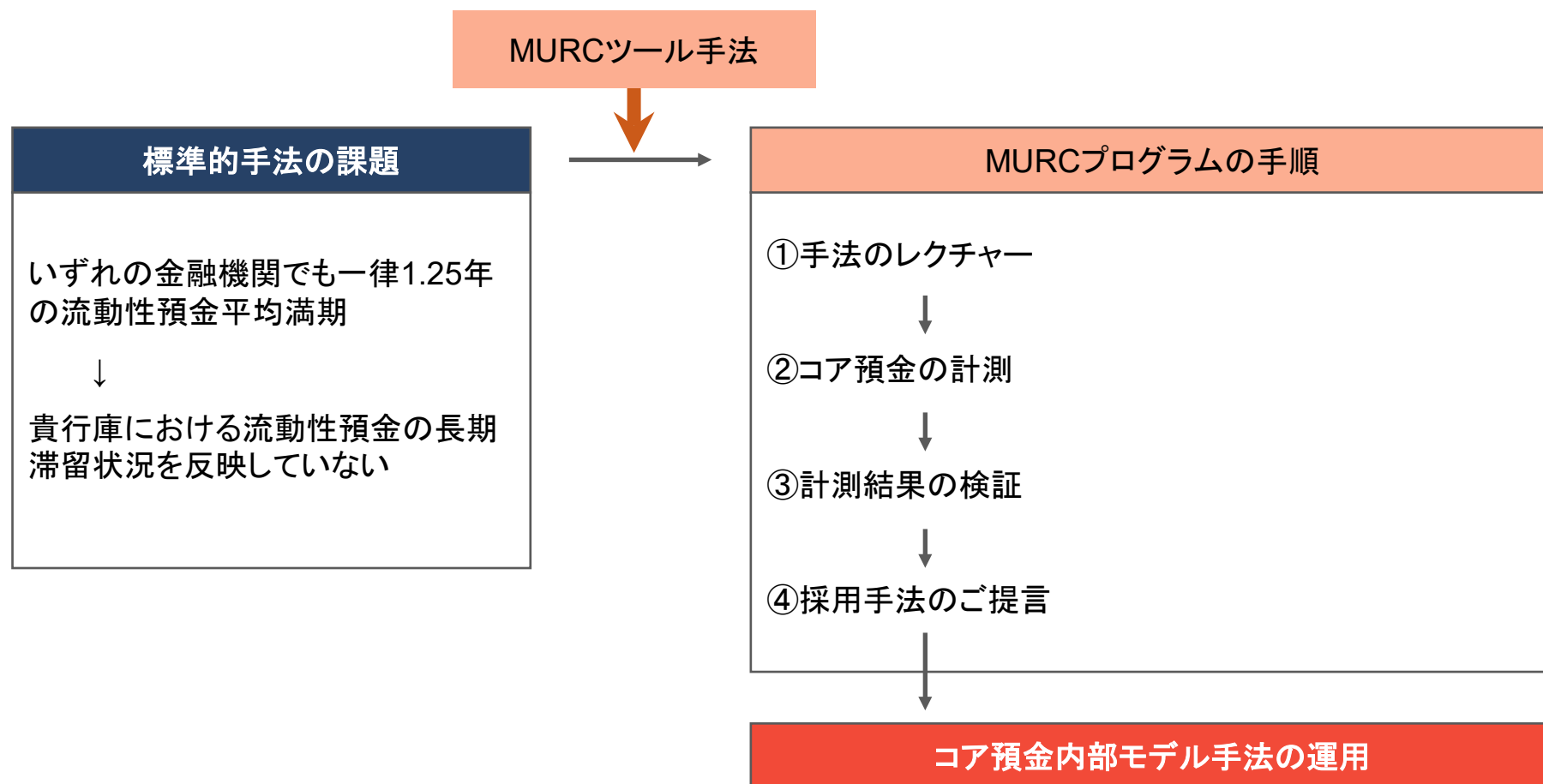
4. コア預金モデル手法 構築支援 (3)MURCのコア預金モデル

- MURCのコア預金モデルは、複数手法によるコア預金計測を特徴としています。
- コンサルティングを通して、貴行庫の実情に相応しい採用手法をご提案し、他の手法は複眼的モニタリングに活用します。



4. コア預金モデル手法 構築支援 (4)MURCご支援プログラム

- コア預金内部モデル手法について、貴行庫データに合致したMURCツールを構築・ご提供し、内部モデル手法の運用に向けた体制整備をサポートします。



5. 預貸プリペイメント率 計測支援 (1) 背景

定期預金の中途解約率、貸出金の期限前返済率を預貸の「プリペイメント率」と総称します

- 銀行勘定金利リスク管理において、預貸の実質満期の把握は、適切な金利リスク計測を行う上で、基礎となります。コア預金モデルにより流動性預金の実質満期を計測する取り組みは普及しましたが、定期預金・貸出金については、名目満期に留まる銀行が多いのが現状です。プリペイメント率計測を行い、定期預金・貸出金についても実質満期を計測する取り組みが求められます。

(※数値は仮設例)

		合計	O/N	~3M	~6M	~1Y	~2Y	~3Y	~5Y	~7Y	~10Y	10Y~
資 産	短期資金	43,803	43,803									
	貸出金	694,949	411,848	8,110	11,822	15,635	45,161	43,113	51,162	29,402	78,697	
	事業性	422,513	318,382	6,240	9,074	11,971	16,133	15,613	19,209	8,491	17,400	
	ローン	272,436	93,465	1,869	2,748	3,664	29,028	27,500	31,954	20,911	61,297	
	有価証券 その他資産	357,559 7,454	32,481	12,849	12,849	12,849	49,776	49,776	61,696	22,793	81,364	21,127
固定資産	14,034			7,454					14,034			
負 債	短期負債	8,708		8,708								
	流動性預金	472,690	144,186	6,706	6,109	10,856	18,121	15,219	25,358	20,776	225,361	
	定期性預金	490,584	92	134,941	112,907	145,172	45,014	38,316	14,142			
	その他負債	16,739							16,739			

(数値は仮設例)				
固定貸出 CPR	住宅	変動金利住宅ローン	2.5%	
		固定金利住宅ローン	2.5%	
	アバ マン	変動金利アバマンローン	3.0%	
		固定金利アバマンローン	3.0%	
	一 般 貸 出	固 定	スワップ固定均等1Y	5.0%
			スワップ固定均等5Y	3.0%
			スワップ固定均等10Y	3.0%
			スワップ固定一括1Y	2.0%
			スワップ固定一括5Y	6.0%
	変 動	ス プレッド固定	均等1Y以下	4.0%
均等1Y-5Y			8.0%	
一括1Y以下			4.0%	
一括1Y-5Y			8.0%	
定期預金 TDRR			スーパー定期1Y以下	10.0%
スーパー定期1Y-3Y	8.0%			
スーパー定期5Y以上	5.0%			
大口定期1Y以下	6.0%			
大口定期1Y-3Y	6.0%			
大口定期5Y以上	1.0%			
変動金利定期預金	2.0%			

コア預金内部モデル手法

【固定金利ローン】
 ベースラインプリペイ率
 (CPR) The conditional prepayment rate

【固定金利定期預金】
 ベースライン中途解約率
 (TDRR) Term deposit redemption rate

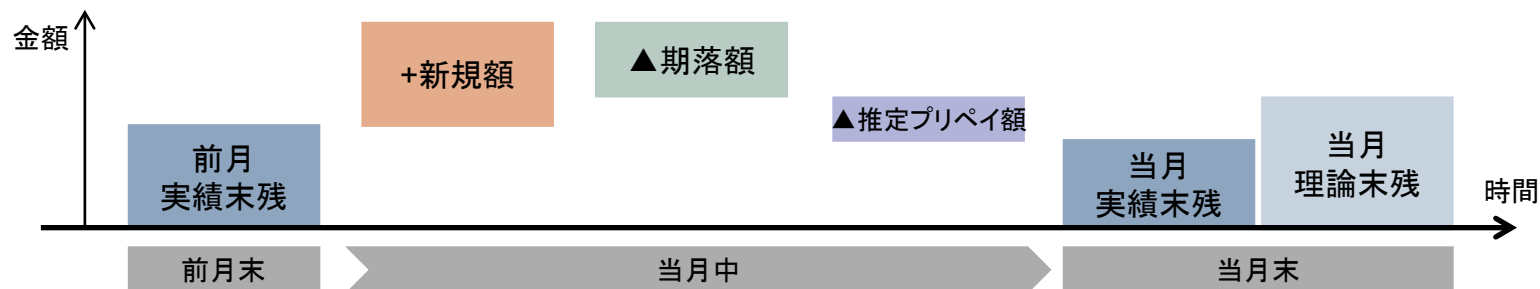
- バーゼル銀行監督委員会の銀行勘定の金利リスク(IRRBB)最終文書では、行動的オプション性を有する金融商品として、固定金利コミットメントライン、流動性預金に加えて、固定金利定期預金の中途解約率(TDRR)、固定金利貸出の期限前返済率(CPR)を挙げています。銀行には、自らの過去実績に基づいたプリペイメント率を計測する取り組みが期待されます。

5. 預貸プリペイメント率 計測支援 (2) 実績値の計測

- 定期預金・貸出金の各商品区分について、利用可能データに基づいて、プリペイメント率の過去実績を類推するロジックを構築します。
- 例えば定期預金は、資金満期ラダーを時系列比較し、成行残高と実績残高との差異を、中途解約額であると類推します。

区分	スーパ-定期3年	残存月数							
基準月	取得ファイル	計数	0ヶ月 基準日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月
2008/12	資満200812.xlsm	期落額	278,837	33,481	19,324	18,082	23,507	22,810	19,273
2009/01	資満200901.xlsm	期落額	270,582	18,826	17,285	22,460	21,583	18,582	23,711
2009/02	資満200902.xlsm	期落額	279,036	19,193	22,879	22,220	18,692	23,989	30,245
2009/03	資満200903.xlsm	期落額	272,636	23,721	21,543	18,312	22,942	29,973	4,809
2009/04	資満200904.xlsm	期落額	283,922	22,179	18,869	23,927	29,733	5,585	21,015
2009/05	資満200905.xlsm	期落額	278,982	18,349	22,464	29,519	4,941	20,364	20,493
2009/06	資満200906.xlsm	期落額	281,389	23,287	22,064	20,503	20,391	20,283	
2009/07	資満200907.xlsm	期落額	282,748	29,151	4,530	20,369	20,258	20,215	34,697
2009/08	資満200908.xlsm	期落額	276,964	25,249	19,797	19,572	19,588	22,981	20,096
2009/09	資満200909.xlsm	期落額	292,104	20,473					

MURCツール
プリペイメント率
の推定ロジック
(イメージ)



5. 預貸プリペイメント率 計測支援 (3)モデルによる将来予測

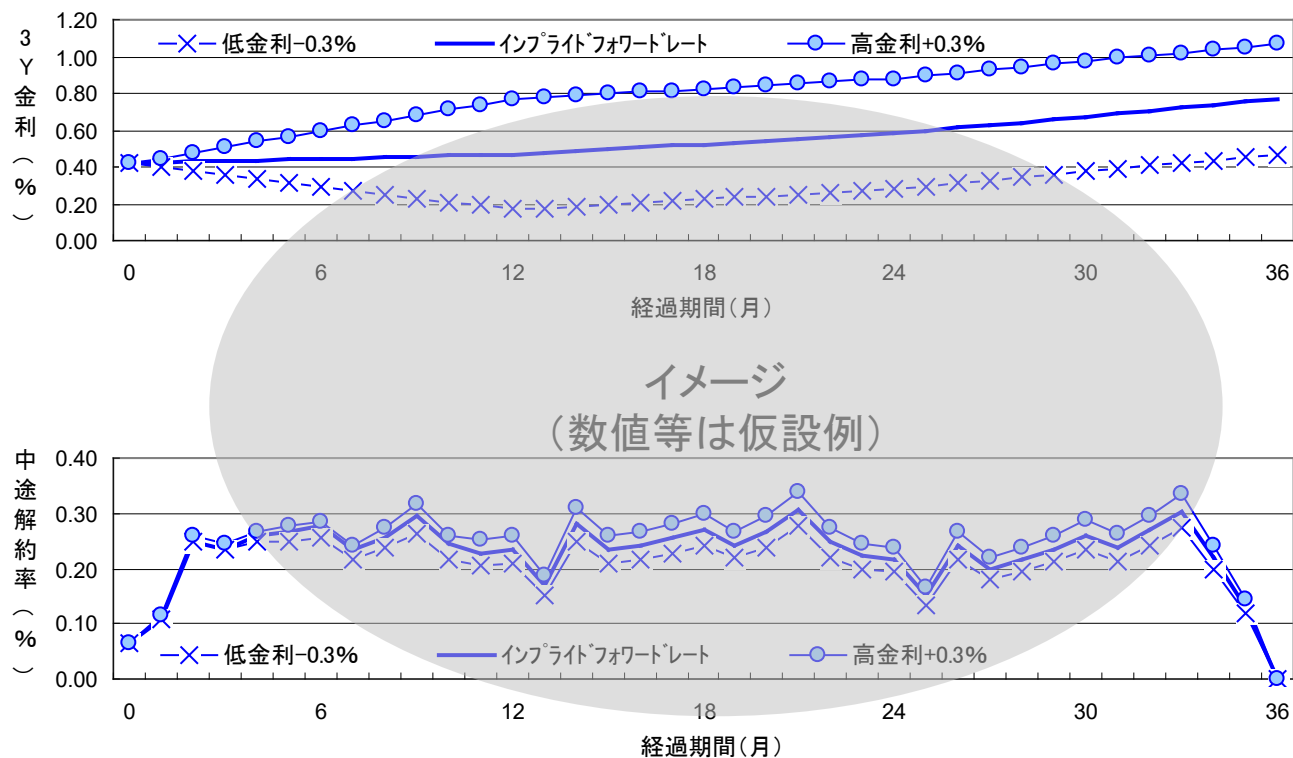
- モデルに、説明変数の将来見通しをセットすることで、プリペイメント率の将来見通しを行います。イールドカーブ変動時のプリペイメント率の感応度分析等にも活用します。

定期預金3年による分析事例

市場金利の将来見通し
(シナリオを任意にセット)

- 分析者設定シナリオ
- IRRBBの6シナリオ /等

中途解約率

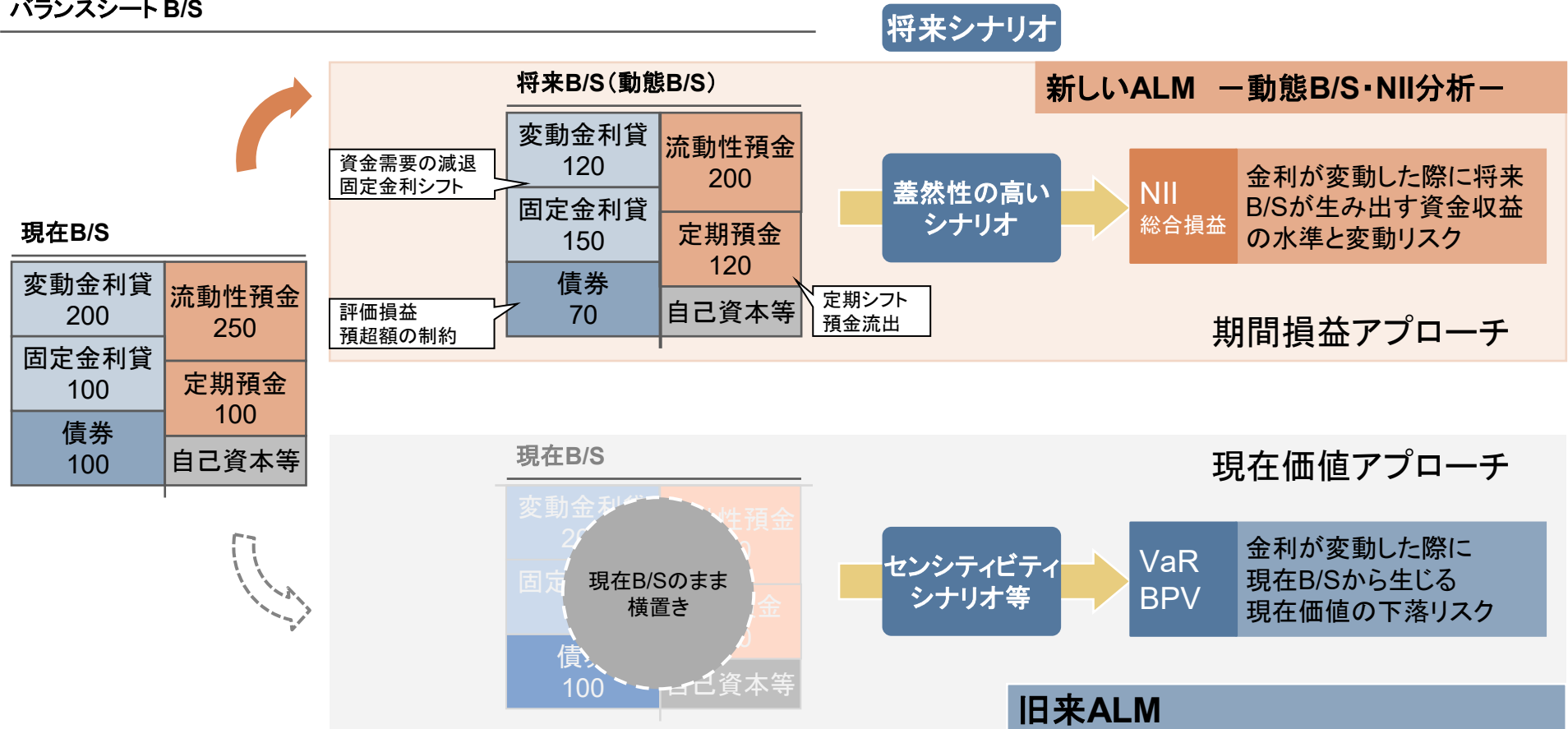


6. 動態B/SによるNII分析手法 構築支援 (1) 旧来ALMとの相違点

- 金利変動による現在価値の下落リスク(VaR等)を重視する旧来ALMだけでは、金利変動による期間損益の推移と変動リスクについての分析・検証は不十分となります。
- 動態B/Sとは、過去の金利等の外部環境の変化に対してB/Sが受ける影響を回帰モデル化し、将来シナリオ下における将来B/Sを動的に予測する取組みです。

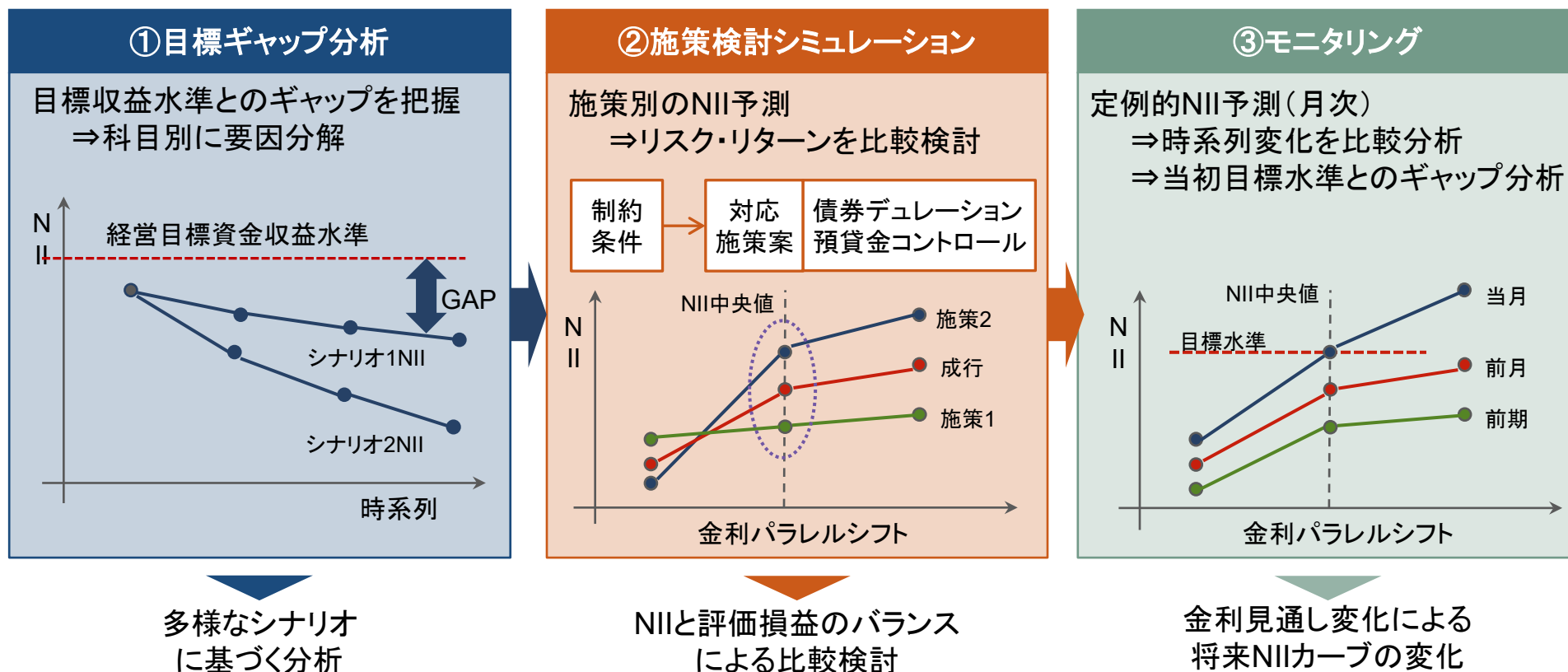
$$\text{資金収益NII} = \text{資金運用収益} - \text{資金調達費用}$$

バランスシート B/S



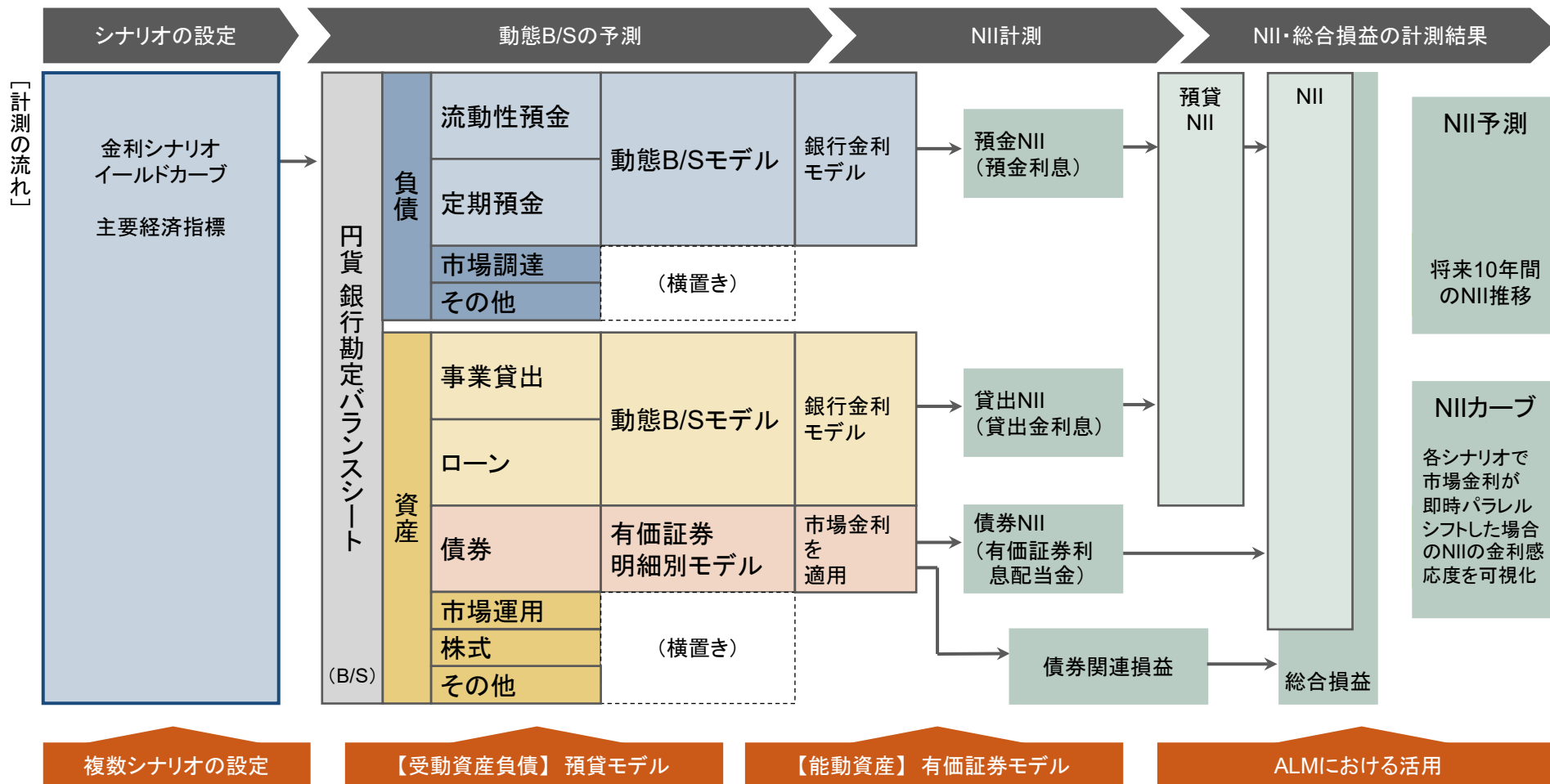
6. 動態B/SによるNII分析手法 構築支援 (2)NIIを利用したALM高度化

- NIIは、ALMにおける「①目標ギャップ分析」「②施策検討」「③モニタリング」の各プロセスで活用することが可能です。
- マイナス金利下の不透明な金融経済環境では、目標ギャップ分析において、多様な将来金利シナリオに基づいて将来の影響度を分析しておくことが特に重要です。



6. 動態B/SによるNII分析手法 構築支援 (3)構築支援プログラム

- 99%タイル損失をモニタリングする経済価値アプローチだけでは、有益なALM議論は困難です。将来シナリオ下のB/SとNIIを見通す期間損益アプローチ [動態B/SによるNII分析] を併用するべく、貴行版の手法・ツールを構築します。



お問い合わせ

- コンサルティングのご依頼、ご相談の際は、以下のボタンをクリックください。
- お問い合わせページに移動しますので、必要事項を記入ください。

お問い合わせ

QRコードはこちら ▶



URLはこちら ▶ <https://reg18.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=nekf-ldkgpe-1648b29f41f462760deaae4cdc248144>

ご利用に際して

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、作成者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。

本資料に関する問い合わせ先:

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

コンサルティング事業本部 コンサルティング業務企画部 下記HPよりお問い合わせください

<https://www.murc.jp/inquiry/>

Appendix I. 当社概要

会社紹介

- 三菱UFJリサーチ&コンサルティングは、三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)のシンクタンク・コンサルティングファームです。
- 東京・名古屋・大阪を拠点に、国や地方自治体の政策に関する調査研究・提言、民間企業向けの各種コンサルティング、経営情報サービスの提供、企業人材の育成支援、マクロ経済に関する調査研究・提言など、幅広い事業を展開しています。

会社概要

会社名	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 Mitsubishi UFJ Research and Consulting Co., Ltd.
本社所在地	〒105-8501 東京都港区虎ノ門五丁目11番2号 オランダヒルズ森タワー TEL:03-6733-1000(代表)  https://www.murc.jp
資本金	20億6千万円
従業員数	約1,010名(2021年6月現在)
代表取締役社長	池田 雅一
理事長	竹森 俊平
主要株主	三菱UFJ銀行、三菱UFJキャピタル、三菱UFJファクター
子会社	PT. MU Research and Consulting Indonesia MU Research and Consulting (Thailand) Co., Ltd. Digital Governance Academy Asia-Pacific株式会社
駐在員事務所	ホーチミン駐在員事務所 The Representative Office of Mitsubishi UFJ Research and Consulting Co., Ltd. in Ho Chi Minh City

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

コンサルティング事業本部

戦略コンサルティングビジネスユニット

経営コンサルティングビジネスユニット

組織人事ビジネスユニット

サステナビリティビジネスユニット

デジタルイノベーションビジネスユニット

国際業務推進本部

ココロミルラボ

営業本部

ホーチミン駐在員事務所

政策研究事業本部

東京本部

名古屋本部

大阪本部

会員・人材開発事業本部

ソーシャルインパクト・パートナーシップ事業部

調査本部

企画管理部門

総合リスク管理部

プロジェクト品質管理部

内部監査部

シンクタンク・コンサルティングファームとしての知見発信

当社所属のコンサルタントによる最近の出版物(抜粋)



当社コンサルタントが出演したテレビ番組(2020年冬)

BSテレビ東京 特別番組
「日本はこうなる!?～2021年を生き抜くビジネス戦略～」



出所及び動画URL: <https://www.bs-tvtokyo.co.jp/nihonkounaru/>

さまざまな業種・業態の企業のお客様のために、
経営課題の解決や経営戦略の立案に
役立つレポートを掲載しています

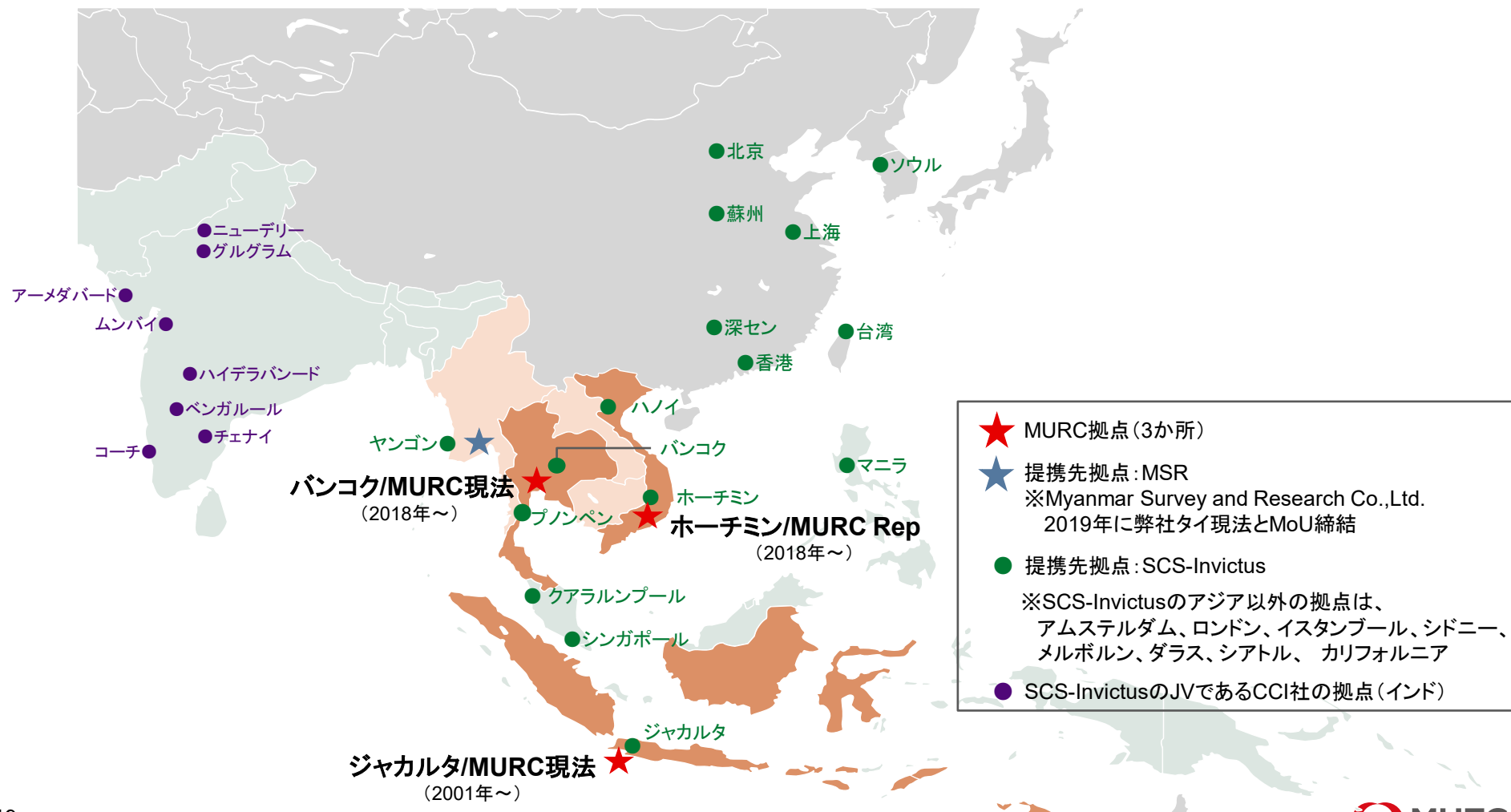
コンサルティング・
レポートはこちら

URL https://www.murc.jp/report/rc/report/consulting_report/



海外のコンサルティングサービスネットワーク

- 当社はかねてよりアジアを重点市場としてとらえ、ASEANの3か所に拠点をもって、コンサルティングサービスを提供しています。
- 2020年に国際会計事務所グループであるSCS-Invictus Holdings Pte. Ltd.とアライアンスを締結し、幅広い領域で、お客様のニーズに対して現地でのサポートにも対応できるような体制を用意しています。



三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

www.murc.jp/